

	日付	内容
第1回	6月21日(木)	イントロダクション
第2回	7月5日(木)	コンセプチュアルアート1 マルセル・デュシャンを祖とするコンセプチュアルアートの歴史は、現代美術の歴史そのものといっても過言ではありません。まずはその基本をおさえることから始めましょう。
第3回	7月19日(木)	コンセプチュアルアート2 ゲスト講師:高嶺格(美術家、演出家) 映像インスタレーション、写真、彫刻のほか、舞台作品も手がける美術家の高嶺格をゲストに迎え、作品や活動についてお話を伺います。
第4回	8月2日(木)	インスタレーション1 ゲスト講師:西野達(アーティスト) シンガポールのシンボルとも言えるマライオンを室内に取り込んだホテルなど、大規模なインスタレーションを多数発表している西野達を招き、屋内外でのプロジェクトの現状や可能性についてお話を伺います。
第5回	8月23日(木)	インスタレーション2 現代のアートプロジェクトで多く登場するインスタレーション。歴史的にどのような試みが行われたのかを学びます。
第6回	9月6日(木)	映像表現1 現代の美術シーンにおいて、映像表現の多様さを見逃すことはできません。映像表現がこれまで何を問題としどんな実験を重ねてきたのかを詳察します。
第7回	9月27日(木)	映像表現2 ゲスト講師:山城知佳子(アーティスト、映像作家) 地域の歴史や人々の営みを起点に映像作品を制作・発表している山城知佳子を迎え、映像というメディアを用いた表現について、お話を伺います。
第8回	10月4日(木)	作品評論の作法を学び、評論を行う ゲスト講師:福住廉(美術評論家) 美術批評家の福住廉をゲストに迎え、展覧会や作品についての基本的な文章の書き方、読心人への伝え方をレクチャーしてもらいます。次の第9回までに、講師の指定する感想文を提出します。
第9回	10月18日(木)	作品評論の作法を学び、評論を行う ゲスト講師:福住廉(美術評論家) 展覧会の感想文を事前に提出し、講師の添削を受けます。添削を受けた文章を例に、良い点や改善点を話し合います。また、添削を受け、次回の授業までに各自リライツし、提出します。
第10回	11月8日(木)	作品評論の作法を学び、評論を行う ゲスト講師:福住廉(美術評論家) 講師に最終確認してもらった文章を受け取ります。最終版を受講生同士で読み合い、お互いの文章を俯瞰して見る練習をします。
第11回	11月16日(金)、 11月17日(土)、 11月18日(日)の いずれか1日以上	アートプロジェクトの現場を見る 複数組のアーティストが参加するTERATOTERA祭りにボランティアスタッフとして参加し、運営側の動きや、アーティストの作品制作の過程を体験します。
第12回	12月13日(木)	キュレーターの活動を知る ゲスト講師:数前知子(東京都現代美術館学芸員) [予定] 東京都現代美術館の工事閉館中に清澄白河エリアを舞台に開催した「MOTサテライト2017春 往来往来」を手がけ、「札幌国際芸術祭2017」にも企画メンバーとして参加された、数前知子をお招きし、キュレーターとしてのアートプロジェクトへの関わり方について伺います。
第13回	12月27日(木)	ディレクターの活動を知る ゲスト講師:木野哲也(TOBIU CAMP代表)、 国松希根太(彫刻家、飛生アートコミュニティ代表)、 奈良美智(美術家) 北海道を拠点に活躍されているおふたりと、2016年より飛生芸術祭に関わっている奈良美智を招き、をお招きし、「飛生芸術祭」のお話などを伺います。
第14回	1月10日(木)	プロデューサーの活動を知る ゲスト講師:佐塚真啓(アーティスト、国立奥多摩美術館 館長) 2012年、東京都青梅市にて、普段は作家のアトリエとして使用している旧製材所を「国立奥多摩美術館」として開館し、展覧会を不定期で開催している佐塚真啓を招き、お話を伺います。
第15回	1月24日(木)	ディレクターの活動を知る ゲスト講師:羊屋白玉(劇作家、演出家、俳優)、 矢内原美邦(振付家、演出家、劇作家) 羊屋白玉と矢内原美邦をゲストに招き、アジア諸国の舞台芸術に関わる人とのネットワークづくりや、それを起点にした作品作りなどを行っているアジア女性舞台芸術会議実行委員会の活動についてお話を伺います。
第16回	2月7日(木)	受講生によるアートプロジェクトの企画発表
第17回	2月21日(木)	受講生によるアートプロジェクトの企画発表

※ 第13回のゲスト講師に奈良美智さんが追加出演されることになりました。(更新日:2018/6/1)